



# アドバンス・ケア・プランニング普及啓発部会 の目標及び取組内容について



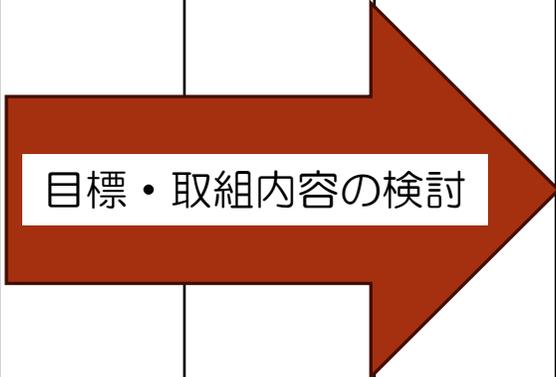
# 部会員について

※敬称略

参画団体	氏名
医師会	加藤 雅彦
訪問看護ステーション連絡会	山田 睦
訪問介護事業者協議会	江口 純子
通所事業所連絡会	山田 康明
有料老人ホーム連絡協議会	城迫 将志
東京都柔道整復師会町田支部	田川 尚寛
訪問マッサージ連絡会	山田 剛寛
小規模多機能連絡会	露崎 陽子
ソーシャルワーカー連絡会	佐藤 真吾
ケアマネジャー連絡会	蝦名 美沙/山本 浩司/坂本 美智代/ <u>長谷川 昌之</u>
リハビリテーション連絡会	湯澤 大輔/ <u>今村 美和子</u>
福祉用具事業所連絡会	岡本 直樹
高齢者支援センター	<u>岡根 浩太郎</u>
東京都栄養士会町田支部	高橋 愛

※下線 ( ) は、元多職種連携研修部会員

# 今後のスケジュール

2024年度						2025年度	2026年度
10月	11月	12月	1月	2月	3月		
町プロ協議会	部会開始			町プロ協議会		1～2か月に1回部会開催 年3回町プロ協議会で報告	1～2か月に1回部会開催 年3回町プロ協議会で報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>部会員及び今後の取組方針承認</li> </ul>	 <p>目標・取組内容の検討</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>目標及び取組内容の承認</li> </ul>	 <p>取組内容の検討・実施</p>		

## 部会の目的

### ① 専門職の専門的知識の習得・現場実践

専門職がアドバンス・ケア・プランニング（以下、ACP）を正しく理解できるように、専門職の知識向上のための取り組みを検討・実施する。

また、専門職が利用者等に対し、ACPを現場で実践することができるよう、より活用されるための手段・方法・ツールなどについて検討する。

### ② 市民の理解促進・普及啓発

市民のACPに対する理解を深め、広く普及を図るため、ACPに関する広報活動を行うとともに、市民向け研修会や普及ツールの作成等の取り組みを実施する。

# 部会開催状況

	開催日時	主な内容
第1回	2024年11月27日（水） 18：30～20：00	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 町プロの概要説明</li><li>・ 部会の概要説明（設置理由、設立目的等）</li><li>・ 各専門職のACPに対する認識及び活用状況等について共有</li></ul>
第2回	2024年12月26日（木） 18：30～20：00	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 目指すべき姿についての共有</li><li>・ ACPの現状と課題についての整理</li></ul>
第3回	2025年1月22日（水） 18：30～20：00	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 課題の要因について</li><li>・ 取組及び目標、指標について</li></ul>

# 各専門職のACPに対する認識及び活用状況等の共有

## (部会での主な意見)

- 「死」に直結するイメージがあり、普及していないのではないか。
- 普及をしてくためには、「どう私は生き抜くか。」「どう人生を卒業していくか。」最後の迎え方を家族と一緒に考えていくという方向に考え方を持っていけたら良いと思う。
- ACPは高齢者支援センターやケアマネ、医師が利用者と実施していると思いき、自分は現場でできていない。また、自分の職種が伝えていいものなのか、どこまでを話して良いのかが分からず、難しさを感じていた。
- デイサービスでは、利用者さんが看取りの段階になるとサービス終了となってしまうので、看取りをすることがない。本人や家族に声掛けをして、ACPを普及していくことがデイサービスの職員としてできることだと思う。
- 訪問看護師に講師を依頼し、ターミナルケアの研修を事業所で行っている。
- ACPでは伝わりにくいため【人生会議】に呼称を変えたほうが良いのではないか。

## 目指すべき姿

市民（本人）が大切にしていることや望んでいること、どんな医療やケアをどこでどのように受けたいか、受けたくないかを、あらかじめ考え、周囲の人たちと共有するプロセスが構築されている状態

# 検討内容【専門職】

## 目標

ACPを現場で活用するための正しい知識・技能を習得するとともに、それぞれの専門職が担う役割を実践し、多職種が連携しながらACPに取り組むこと。

## 現状の整理

- ① ACPを知らない、分からない
- ② ACPを知っていてもできていない
  - ・ 具体的に取り組めていない。専門職によってプロセス・認識が違う。
- ③ ACPを知っているが専門職としてどこまで関わるべきか分からない
  - ・ 職種によって話せる内容にも限りがあるため線引きがあいまいでこちらからは話しかけづらい印象を受ける。
- ④ いざという時は家族に聞いてしまう

# 検討内容【専門職】

## 課題

- ① ACPを知っているが活用できていない
- ② ACPを知っているが役割が分からない
- ③ ACPを知っているが専門職としてどこまで関わるべきか分からない

## 要因

- ACPに対するマイナスイメージがあり話しづらい
  - ⇒ • 市民に話す際に提示しやすいツールがあると話を切り出しやすい
  - 話すタイミングが分かると切り出しやすい
- 専門職としてどこまで関わっていいのか分からない
  - ⇒ • 自分の職種の仕事の役割が分かれば実施しやすい

# 検討内容【専門職】

## 取組内容

誰への取組か	取組内容
事業所	<p>ACPの手順書（マニュアル）の作成</p> <p>【概要】 専門職間の連携、役割分担、市民向けツールの活用方法、ACPを実施するメリット等について記載されているもの。</p> <p>【効果】 専門職のACPに対する理解を均一にできる。 各事業所でのACPの教育に活用でき、ACPの実践につながる。</p>
専門職	<p>市民に向けて説明・実施ができるツールの作成</p> <p>【概要】 市民（在宅療養をしている方（本人・家族）と市民（元気な方）に向けて使用できる手軽で簡易なツール（リーフレットなど）を作成して理解し活用する。</p> <p>【効果】 在宅療養をしている方には家族間の意思共有の促進ができる。市民には手軽で使いやすいツールを提供することで、ACPへの関心・参加する意識向上、ACPの重要性を身近に感じやすくなることにつながる。</p>

# 検討内容【市民】

## 目標

本人が大切にしていることや望んでいること、どんな医療やケアを受けたいか、受けたくないかを、あらかじめ考え、周囲の人たちに話せるよう、ACPを正しく理解してもらうこと。

## 現状の整理

### ① ACPを知らない、分からない

- ・言葉、考え方自体が知られていない。重要性を理解していない。

### ② ACPを知っていてもできていない

- ・話すタイミングが分からない、死に向かうことが怖くて向き合えない、やり方が分からない、自分が望む医療・介護の選択肢が分からない

### ③ ACPを知っているがほかの人に任せたい 子ども、医師など

### ④ ACPに取り組んでいるが限られた範囲でしか共有できていない

### ⑤ ACPに取り組んでいて周囲と共有できている

# 検討内容【市民】

## 課題

- ① ACPを知らない
- ② ACPを正しく理解していない

## 要因

- ACPを知る機会がない
  - ⇒ • 既存のツールのほか、より利用しやすく、手に取りたくなるようなツールがあるといい。



# 検討内容【市民】

## 取組内容

誰への取組か	取組内容
在宅療養をしている 本人、家族 （ACPが必要な方）	市民がとりかかりやすいツールの作成（簡易的 チェックシート等） 【概要】ACPのポイントとなる①過ごす場所についての意向（病 院か在宅か等）②食事についての意向③延命についての 意向 の3項目について確認ができ、書面として形に残せ るもの。 ACPについて考えるきっかけにできるもの。 ※専門職への取組ともリンクさせる
市民 （元気な方・年代は 問わない）	手に取りやすいリーフレットの作成 【概要】市民センターやイベント会場等、リーフレットが多数置い てある場所に設置したときに、目に留まり手に取りたいと 思えるタイトル、表紙のもの。 ※専門職への取組ともリンクさせる